

被災直後の心境 絵で表現

熊本地震の前震から10年を「more。」を町に寄贈し迎えた14日、大津高(大津町)の美術講師西田佳世さん(27)が、同高美術コースの3年生だった地震直後に描いた絵画 町中に広がるひびを「乗り越

元大津高生西田さん 町に寄贈



大津高の美術講師の西田佳世さんが熊本地震直後に描いた絵画「more。」 14日、大津町

えるべき壁」として捉え、ひび割れた壁で「過去を壊して生まれ変わる」復興の姿を表現した。

当時、画材や石こう像が散乱した美術室を片付けながら「未来の希望が薄れていくように感じた」と西田さん。「今しか描けない絵がある」と感じ、夢中でキャンバスに向かった。

昨年、大津高のメディア放送部から当時の学校の様子を教えてほしいと取材を受け、ふと絵画のことを思い出した。「何かと戦っているような、今描こうと思っても描けない絵です」

絵画はこの日、町主催の熊本地震セミナーでお披露目された。町役場に飾られる予定。西田さんは「壁を壊す絵が、地震を経験した人はもちろん、そうでない人にとっても励ましの絵になったらうれしい」とほほ笑んだ。

(佐藤千尋)